

# 学研労協 NEWS ニュース

## 第 84 回筑波研究学園都市圏統一メーデー開催 働くものの生活と誇りのために、そして未来のために！

全国各地で5月1日午前、メーデーの集会やデモ行進がありました。つくば研究学園都市であった第84回メーデーには、約800人が参加し、学研労協小滝議長はあいさつで、民主党政権から安倍政権に交代したにも関わらず、原発問題、TPP問題、社会保障切り捨て、米軍基地問題、改憲問題等々の課題への対応能力のなさを指摘し、公務員宿舍廃止問題の地域社会へ深刻な影響に対して各人の住民としての行動が大事だと訴えました。最後に、以下のメーデー宣言を採択して、中央公園からデモ行進を行いました。

### メーデー宣言

私たちは本日、「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう！」のスローガンを掲げて、第84回「つくば中央メーデー」に結集しました。

昨年の政権交代の後、安倍政権の強引な経済復興政策により、円相場は下落し、株価は上昇し、いくつかの指標は景気回復の兆しを示しているかのように見えます。これまで膨大な内部留保を蓄えてきた一部の大企業は政府の要請に応じて給与の改善を打ち出しています。しかし景気回復は実感できません。目前の消費税引き上げをはじめとして、将来に大きな不安を感じます。中小企業や公務員の給与は上がらず、公務員の退職金は引き下げられました。ましてや非正規雇用労働者や社会的弱者はまったく蚊帳の外です。充実した将来のために鍵となる教育や医療・年金などの社会システムの整備には全く手がつけられていません。

就職難、非正規雇用やワーキングプアの固定化、長時間労働、サービス残業、希望を失う若者、いじめ、毎年3万人もの自殺者、孤独死—これが一流の国に許されるものでしょうか？豊かさとは程遠い実態に私たちはしばしば絶望しそうになります。

震災からの復興は長い道のりです。避難者が故郷へ戻れる目処は全く立たないにもかかわらず、福島原発の事故はもう関係の無い遠い過去の出来事であったかのように。技術的にも政策的にも出口のないまま、安上がりな電力が得られるという虚構の理由で原発を再稼働させようという策動は、「もう原発に頼るのはやめよう」という国民の決意をまったく無視したものです。将来の核武装のための原発維持論も大きな不安です。

内外の危機に乗り、公益及び公の秩序の名の元に、国民の基本的人権を否定し、戦争への道を開く憲法改悪への策動からは目が離せません。また地域農業や食の安全を脅かすTPP参加には強く反対します。

私たちは働くこと、生きることの充実感と誇りを強く求めます。同時に私たちは民主主義社会の将来に対する責任を負うものです。働くものの団結で大きな困難を乗り越え、希望の持てる未来を切り開く力となることをここに決意します。